

第2回 代表者研修会報告

日時：平成29年10月12日（月）13:00～

会場：静岡県男女共同参画センター「あざれあ」

司会：橋本 副会長

1 あいさつ

(1) 静岡県養護教諭研究会

山崎 永子 会長

みなさま、こんにちは。

本日も御多忙の中、県下、各地から代表理事の先生方にお集まりいただきありがとうございます。10月の3連休より、寒暖の差が激しかったり、夏の暑さがぶり返してきたりと体調を崩しがちですが、児童生徒はもちろん、先生方におかれましても、御自愛をいただきたいと思っております。

さて、去る8月7日の夏季研修会では、台風5号の影響で、短い時間の研修でありましたが、皆様の御協力のもと、安全に終了できましたこと、まずもって、お礼申し上げます。ありがとうございました。

研修会の内容は、秋山千佳先生の「ルポ保健室 保健室から見える現在の子ども像」の御講演でした。若い方からの感想の中には、「初任者研修会で、ルポ保健室の本を紹介していただき、年度末にようやく購入しました。なんとか1年を終えようとしたころ読んでみたところ、心がずっと軽くなったこと、心が熱くなり感動したことを今でも覚えています。今日の講演はとても楽しみでした。」といった内容がありました。若手の育成面でも非常に良い内容だったと認識しました。

保健室での子どもたちの現代的健康課題は、社会の縮図であり、社会の課題であることから、学校職員は勿論、多様な背景を有する方々と連携・協働していく「チーム学校」は欠かせない内容でした。

この夏季研修会の運営も、私たち役員にとって非常事態でありましたが、「チーム29」で終了することができました。これも、理事の皆様をはじめ、静岡市の応援があってこそ開催できたと思っております。御協力をいただきまして、ありがとうございました。

また、8月22日には、半日ではございましたが、小・中・高の交流研修会を開催いたしました。今回は、NPO法人静岡県男女共同参画センター交流会議と共催して、フォーラム形式で滝和子先生から「LGBT（性的マイノリティ）」について専門性を深める御指導をいただきました。LGBTの当事者の5名の方がパネリストとして参会いただけたことは、大きな財産となりました。夏休みの終盤にもかかわらず、多くの理事の皆様に参加いただき、重ね重ね御礼申し上げます。ありがとうございました。

今後は、冬季研修会に向けての準備を進めていきます。「学校保健委員会」に焦点をあて研修を深めていきます。ぜひ、多くの会員の皆様に参加していただきたいと思っております。この内容についても御検討いただき、会員の皆様にとって有意義な冬季研修会になることを願っております。よろしくお願いいたします。

本日は、御多忙の中、県教育委員会 教育主幹 松本先生、県学校保健会 事務局長 山下先生に御出席をいただきました。よろしくお願いいたします。

短い時間ではありますが、御審議の程よろしくお願いいたします。

(2) 静岡県養護教諭研究会顧問校長

江川 正徳 校長 欠席

(3) 静岡県教育委員会健康体育課健康食育班

松本 美千代 教育主幹

みなさんこんにちは。県教育委員会健康体育課の松本でございます。この後、所管事項もありますので日頃のお礼と言うことだけでご挨拶をさせていただきます。日頃は先生方には大変お世話になっております。特に8月7日の養護教諭講習会につきましては天候が不安定で予定変更もありましたが先生方のおかげで何とか開催することも出来ました。ありがとうございます。また今後ともよろしく願いいたします。

(4) 静岡県学校保健会 山下事務局長 (別紙)

改めましてこんにちは。県学校保健会事務局を務めております山下でございます。よろしく願いいたします。日頃は、養護教諭の先生方を代表されるお立場から、学校保健会にお力添えをいただきまして厚く御礼申し上げます。本年度も折り返しの時期を迎えました。それぞれの地区、学校におかれましては先生方が中心となってご活躍のことと思います。続きましてご挨拶方々三点お話をさせていただきますと思います。

- ・第56回静岡県学校保健研究大会 榛原地区 (11月9日 牧之原相良総合センター い〜ら) 実践発表では榛原地区の養護教諭研究会で「こころの力を育てるための保健室からのアプローチ」という研究主題の発表となり大変楽しみとじているところです。

- ・平成29年度学校保健功労者・健康優良学校

今年度の被表彰者、学校、地区功労者につきましては地区学校保健会からの推薦、優良学校につきましては、市町村教育委員会、医師会、歯科医師会、薬剤師会からも推薦をいただきまして実地調査を経て9月28日に山崎会長にもご出席いただき審査会を開催しまして決定しました。特に健康推進校につきましては、実地調査に松本教育主幹と8月の末から9月の中旬にかけて回らせていただきましたが、そこで感心させられましたのは児童生徒の健康課題をきちんと押さえて学校保健経営をされているということが13校優良校の共通するところでした。

- ・生徒保健委員活動発表会

例年「あざれあ」で行っていましたが今年度は耐震工事の関係で労政会館にて行います。本年度の発表は7校です。教師と生徒相互の向上を図っていくということで有意義な事業だと思います。開催通知は、地区の学校保健会を通しまして11月のはじめくらいにそれぞれの地区に開催要項が届くと思います。開催日は12月26日です。ちょうど冬休みに入っすぐの時期かと思いますが是非聴講を多数いただければと思います。以上でご挨拶に代えさせていただきます。

2 県教委所管事項 (別紙)

1 児童生徒の疾病への対応について

(1) インフルエンザ、ノロウイルス等の対応

流行が予想される場合の施設・設備の消毒を確認したい場合等、校長の指示を受けた上で学校医や保健所、市町の所管課等に相談し、指導・助言を受けることが必要。今年はRSウイルス感染症の流行も例年より早いため注意すること。また、インフルエンザによる学級閉鎖の報告用紙は、9月5日付けでお送りした用紙を使用すること。

(2) 学校保健安全法施行規則に定める第2種感染症の出席停止基準についてですが、基準として定められているが、学校医その他の医師において感染のおそれがないと認められる場合はこの限りではないとしているので注意すること。

(3) 梅毒の増加について

(4) マダニが媒介する感染症について (別紙資料1)

9月以降、県東部で日本紅斑熱により死亡が2例あった。日本紅斑熱は日本紅斑熱リケッチアという病原体をもつマダニにかまれることで感染するので、野山や草むらに入るとき

は肌の露出を少なくする。また、マダニにかまれた場合は体調の変化に注意し、発熱等の症状が見られたら早めに医療機関を受診すること。

(5) 脳脊髄液減少症について

9月15日(金)に実施した勉強会では全県で34人の先生方に参加いただいた。今後も児童生徒や保護者からの相談等があった場合は文部科学省からの通知や県健康福祉部のホームページを参考にすること。

(6) 子宮頸がん予防ワクチンの接種について

2 学校における健康診断について

健康診断の事後措置を確実に行うこと。例えば、視力検査でB以下の児童生徒に対して眼科医を受診する等の指示をする。具体的には4月に送りました通知や健康診断マニュアルなどを参考にすること。

3 平成29年度学校保健及び学校安全表彰(文部科学大臣表彰)について

学校保健に対しての長年の功績や、学校保健活動に対する顕著な取り組みが認められた。

学校医(元) 勝俣 直躬 様(御殿場市立南中学校)

学 校 伊豆の国市立韮山小学校

韮山小学校については心の健康チェックやチェックリストを使いソーシャルスキルやストレスマネジメントなどの指導の実施や心と体が安定するための週日課を意識的に組んだ。また特別支援学校との交流、医療機関との連携を行い、特別支援教育の充実と児童への支援を行っている点などが評価された。

その他学校安全の面では、本年度、掛川市立大須賀中学校、袋井市立浅羽東小学校、子どもガード協議会が受賞した。なお、11月16日に三重県にて全国大会で表彰される。

4 薬物乱用防止教室(薬学講座)の開催について

各学校の先生方のご尽力のおかげで、薬学講座は定着しており、全ての小中学校で実施されている。今後は啓発発信校を中心に内容をさらに充実していただき、特に中学校においては毎学年確実に実施すること。

5 がん教育について

県健康体育課から県作成の指導参考資料は各市町教育委員会を通して送付した。また、文部科学省からの「がん教育推進のための教材」も一緒に送付したので各学校の実情に応じて活用すること。

6 その他

(1) 「学校でのスポーツ事故を防ぐために」のセミナー開催について

日本スポーツ振興センター主催のセミナーを実施する。平成29年11月2日(木)にグランシップで行うので参加希望者はホームページ等を確認の上、申し込みをする。

(参加費無料)

(2) ヒアリ、アカカミアリについて

県内では、静岡市、吉田町、袋井市などで発見された。引き続き通知を確認して対応をお願いしたい。

(3) 全国小学生歯みがき大会について

一昨年は県内で10校、今年は27校の参加があった。来年度は平成30年6月1日~10日。全国で3500校募集する。募集は今年の12月1日(金)から平成30年2月28日(水)まで。参加していただくとありがたい。各地区でもお知らせいただきたい。

- ・11月に三重県で行われる第48回全国学校保健学校医大会において日本医師会長表彰がある。これは学校保健の重要性を認識し、向上発展のために行われる。学校医としては、勝俣直躬先生、養護教諭では浜松特別支援学校磐田分校の関裕子先生が受賞。

3 議事

(1) 静岡県養護教諭夏季研修会の反省 (別紙)

朝妻幹事

- ・講演「ルポ保健室ー保健室から見える現在の子ども像」というテーマで、716名中8名がC(あまり参考にならなかった)で、多くはとても参考になったということであった。感想を9ページにわたってまとめてある。内容は、保健室、養護教諭というものに対して日頃の自分をもう一度見直すことになった、これからも頑張りたいという感想が多かった。また、養護教諭とは全然違う立場の方からの応援メッセージということで自分たちの心にプラスになったという感想もあった。午前中は鎌塚先生のお話であったが、午後の内容と共通するところがあり、「気付く感性」とか「想像する力」など1日を通して充実した研修だったという方がとても多かった。時間が短縮されてしまったもう少し聞きたかったという意見や、時間が短縮されてしまったけれども非常に濃い研修が出来たという意見もあった。

(2) 平成29年度養護教諭冬季研修会開催要項 案 (別紙)

山崎会長

趣旨 子どもたちの心身の健康課題が多様化、重層化、深刻化していることから養護教諭の役割を認識し、専門性を生かした学校保健活動や健康教育に関する実践的な研修を深める。

日時 平成29年12月15日(金) 午前9:30から午後4:10まで

会場 静岡コンベンションアートセンター グランシップ

内容 午前 講演

「今、養護教諭に求められているダイバーシティマネジメントの力」

～チーム作りの本質～

講師 静岡大学教育学部教授 鎌塚 優子 氏

午後 フォーラム「学校保健委員会が学校、そして地域を変える」

～つながろう、ひろげよう、ふかめよう～

4つの学校保健委員会についての 発表と指導助言

参加人数 申し込み順 200名

参加費 1000円

申込期間 平成29年11月1日(水)～平成29年11月14日(火)

申込方法 FAX または Email 、浜松地区はSA 調査回答

参加の可否 参加が決定した方へのみ11月24日(金)までに連絡します。

緊急時の連絡体制についての文書、中止の時にホームページにアップするので見るようにしてください。

(3) 各委員会の報告

①会誌「たちばな60号」編集の中間報告 (別紙)

竹内委員長

12月初旬に発行できるように進めている。

内容 挨拶、学校保健の動向、知りたい・聞きたい(LGBTについて)、養護教諭の実態調査結果

研究のあしあと、声、地区の様子 他 116 ページ 1400 円

会誌「たちばな 60 号」発行と送付について

- ・各小中学校宛て文書発行（静養教 76 号）

公費・私費の注文数を記入し各地区の提出先へ提出。

原稿執筆者には 1 冊贈呈する。

- ・各理事宛文書 各関係機関への配布も含めて、地区の注文数を担当へ報告する。

地区の学校保健会、顧問校長、市町教育委員会等の贈呈分については再度冊数の見直しを。「たちばな」だけでなく「実践事例集」も同様である。

申込み締め切りは 11 月 10 日（金）でお願いしたい。地区理事には事務局からデータで送る。

各地区には 12 月初旬に印刷業者より発送される。原稿執筆者には研究会から直接発送する。地区学校保健会や顧問校長、市町教育委員会分については地区より申し出のあった送付先に送付する。

②実践事例集 15 編集委員会編集中間報告

池ヶ谷委員長

- ・28 年度から 2 年をかけて編集
- ・テーマ「チーム学校を基盤とした学校保健委員会」つながろう ひろげよう ふかめよう
- ・仕様は A 4 版 100 ページ、 価格は、1300 円
- ・県のホームページに資料を掲載しダウンロードにする予定
- ・申込については、たちばなと同様。締め切り 11 月 10 日（金）
- ・事例提供者には直接郵送する。
- ・事例提供者が転勤、退職された場合は理事に相談する。
- ・今回の事例集は県内版で、県外では販売しないものとなっている。なるべく安価で先生方に提供したいと進めてきた。贈呈分の数の再確認をお願いしたい。

③調査研究委員会「実態調査」の結果報告

増田委員長

調査研究委員会活動報告

夏休みに冊子を仕上げる事が出来た。「たちばな」に掲載するダイジェスト版についても原稿を作成している。12 月に最後の調査研究委員会を計画していてそこでは調査内容の検討をしていく予定。2 月の代表者会の時に今年度の実態調査についてお願いをする予定。

調査研究「実態調査」の結果報告

集計をしている中で気付いたことは、前の年に扇風機、エアコンが付いていて翌年付いていない、前年度セキュリティー管理されていた学校が、翌年セキュリティー管理されていないなどの記入間違いと思われるようなものは、集計の中で連絡させてもらった。確実な回答をお願いしたい。

平成 29 年度からの実態調査のデータ入力について

本来は夏季研修会の中で入力について説明する予定が、出来なかったため、本日、地区理事にデータ回答について説明をする。調査時期は平成 30 年 3 月、データの提出についての詳しいことは第 3 回の代表者会で伝える。各学校からは、今まで紙媒体で地区理事に提出していただいていたが、今年度から、データ入力での提出になる。パスワードについては必要がないので

かけない。ただし地区集計に関してはパスワードをかけ保護した状態での提出となる。

平成 28 年度の調査報告冊子の説明（別冊）

この冊子は地区の顧問校長分も配布させていただいているので、地区に帰りましてからお渡し願いたい。

この調査の目的は、養護教諭を取り巻く環境や児童生徒の保健室利用状況の実態を把握し、問題解決に向けて養護教諭の役割を明らかにするとともに、児童生徒の心身の健康づくりの推進を図ることを目的に平成 4 年度から行っている。今回の調査結果で 25 年目ということになる。対象は 802 人。この調査は今まで通り質問紙法で行った。2 ページの養護教諭の平均年齢は 43.3 歳です。小学校が 41.8 歳、中学校が 46.2 歳となっております。地区ごとに見ても平均年齢に大きな差はない。年代別に見ていきますと 40 代が 235 人、50 代が 284 人と大変多く、県全体の 65% を占めている。20 代 30 代は 50 代のほぼ半分の数になる。このような実態から 10 年後の静岡県養護教諭の資質が下がらないために若手育成に力を入れている。

6 ページからは学校基本調査になる。様々な会合への参加や環境についてまとめてある。会合については、企画委員会への参加、生徒指導委員会、いじめ対策委員会、就学支援委員会への所属率が高くなっている。各会合での養護教諭からの専門的な意見が学校で生かされていると感じる。施設設備については「今年度インターネットに接続できるパソコンがありますか」ということで回答していただいた。地区によって差があった。割合の低かった地区についても徐々に高くなってきている。市町教育委員会へ要望の資料として参考にさせていただきたい。

14 ページからは、保健室登校、いじめ、虐待についての調査結果をまとめてある。その年度によって多少の差はあるが、やはり多い。さらに保健室登校対応以外でも養護教諭が関わっている児童生徒が多い。

24 ページにはどんな内容の支援をしたかということがまとめてあるが、多岐に渡っている。学校だけでは解決できない事も多く関係機関との連携も大切になってくる。

31 ページからは危機管理に関する調査のまとめを載せてある。危機管理に関する校内研修の取組ということで、32 ページには、多くの学校で養護教諭が企画、当日の研修に関係していて、研修内容をより充実したものになっているということがわかる。33 ページにはどんな研修をやっているかということが載せてあるが、様々な危機が起こっている。その他に掲げてある危機にも取り組んでいる学校があるということで来年以降の参考にしてほしい。36 ページからは食物アレルギーに関する調査をまとめてある。年々学校生活管理指導表を提出する児童生徒は増えていて、同時にエピペンを持つ児童生徒も増えている。このような実態から、校内ではエピペンの使い方について全職員がいざという時に対応出来るように研修内容に組み込んでいる学校が多い。

39 ページからは個人基本調査についてまとめてある。保健室では色々な対応を求められているので、40 ページからある複数配置の希望率については 650 人を超えると 71.9% の学校が希望をしている。複数配置が現在の基準の人数からもう少し変わってくると良い。県の教育委員会や、市町によっては市町単独の保健室補助員さんがついている学校もあるので、それらも含めお願いが出来たら良い。

43 ページからは資質の向上については、先生方が研修したい内容等をまとめてある。子どもたちの様々な実態、変化が見られる中で、専門性というところで救急処置が一番高くなっている。昨年は冬季研修会で専門性を高めるということで眼科の先生、歯科の先生その他にもお招きして研修を行った。今後も研究会では専門性を高めるということで研修を考えていきたい。

平成 29 年度末のデータ回答の方法について

夏に説明が出来なかったので、3月の実施までに各地区で時間を取っていただき、会員に説明をしていただきたい。本日、各地区に1枚、説明用のパワーポイントが入ったCDを配布した。この中にプレゼンテーションの内容が入っているのでお使いいただきたい。平成29年度末には全会員がExcelを使ってのデータ回答としていきたい。第3回の代表者会の後、全理事あてに調査研究の回答に関するデータを配布予定。

データの入力方法の説明（パワーポイントによるプレゼンテーション実施） 鈴木幹事

④ホームページ編集委員会（別紙）

橋本委員長

編集委員会を2回実施。

<アップ状況>

- ・平成29年度静岡県養護教諭研究会事業計画
- ・静岡県養護教諭研究会会員の実態
- ・第1回代表者会報告
- ・平成29年度養護教員講習会及び養護教諭研修会の報告
(夏季講習会の鎌塚先生の内容については現在検討中。伝達講習と夏季研修会の内容のみアップされている)
- ・きんもくせい 104 105 106号
- ・研修会案内
- ・その他 日本学校保健会の未成年飲酒防止啓発ポスターキャッチコピー募集要項（10月16日までの募集）、保健室訪問（今年は静岡地区の方の掲示物がアップされた）

<今後の掲載予定>

- ・平成28年度実態調査結果
- ・第2回代表者会報告
- ・平成29年度冬季研修会報告
- ・地区の研修
- ・きんもくせい 107、108、109号
- ・保健新聞（県学校保健会）
- ・その他 たちばな60号表紙、実践事例集表紙、目次、資料
- ・緊急時連絡体制についても掲載していきたい。

静岡県養護教諭研究会で検索できる。たくさんのご意見をお願いしたい。

⑤組織検討委員会

織田委員長

政令市の権限移譲に伴う課題について

政令市における権限移譲に伴う様々な課題や現状について、8月7日の夏季研修会で、昨年度からの経過報告をさせていただいた。静岡市、浜松市ともに、今後も研究会へ加入継続の希望がある中で、政令市の状況や研究会としての今後の見通しを確認しながら現在も検討を進めている。その中で、今後研究会として確認、検討すべき事項として上がっている四点についてお伝えする。一点目は各種委員会の運営についてである。平成29年度になり浜松市の委員が減数（理事は4名から2名に減、各種委員会は、事例集、調査研究、組織検討委員は2年継続の委員のみとし、たちばな、調査研究委員は新たに選出しない）になったことで、各種委員会での、地区のバランス、活動内容への影響など現状について各委員長や役員より意見を集約し把握しながら今後検討をしていく。二点目の加入方法の確認については、研究会組織・活動を今後も維持していくため、また政令市と研究会・全国とのつながりを維持していくため、個人での加入は避けたいと考えている。地区ごとの加入が基本であることを再度確認していきたい。三点目は会則改正についてであるが、静岡市から今年5月に役員選出の要望を受けて、政令市から会長を選出しない場合、会則の見直しが必要となる。32、33年度以降の役員選出に向けての検討になる。四点目の出張旅費については今まで通り県費旅費で対応しているが、旅費支給額は任意団体である校長会に連動しながら承認していただく流れで30年度に入ってから確認が必要になる。この四点について本年度中に確認検討をして30年度につなげていきたい。今後も政令市の状況、役員選出委員会の報告を受けて組織検討委員会を来年1月くらいに開催する予定である。

⑥役員選出委員会報告

富田委員長

平成30・31年度 養護教諭研究会 役員選出委員会の経過報告

7月3日に、第1回役員選出委員会を開催し、選考方法や選考までの流れを確認した。地区理事に「会長・副会長の推薦について」という文書を郵送させていただいた。

10月5日に、第2回役員選出委員会を開催した。そこで各地区より推薦された候補者の方々から会長・副会長の内定に向け選考を進めている。

会長・副会長の選考が内定したら、幹事・書記、事務局・会計の選出に入る。

該当地区の理事には、「地区の中から幹事・書記、事務局・会計を選出してほしい」という旨を連絡をするので、地区内で選出をお願いしたい。選出方法は、地区に一任する。報告の期限については、その際に連絡する。

副会長の選考については、内定後、該当地区の理事と役員選出委員にて学校訪問をしていただくことになっている。旅費は研究会から支出される。その際には、役員選考委員と連絡を取り合いながら日程調整などをしていただくことになる。

⑦養護教諭の活動の実際編集委員会

清副委員長

「養護教諭活動の実際」の経過報告

編集委員5名と協力委員6名の協力で行っている。養護教諭活動の実際の内容の更新と付

属の CD 資料についての変更をしていくということで、平成 30 年 3 月に発行予定。現在少しゴールが見えてきている状態である。平成 29 年 10 月 9 日（月）に「あざれあ」で行ったが、編集委員の先生方で救急体制と救急処置、学習指導要領の改訂に伴いまとめていく作業があるが、CD に載せるデータの方は 11 月 11 日（土）を目安に仕上げて提出する予定である。内容の方が充実しているので職務を行う上で参考になることもたくさんあるかと思う。楽しみに待っていてほしい。

(4) 平成 29 年度静岡県養護教諭研究会活動反省について

高井事務局

- ・ 11 月下旬に事務局より理事に反省調査用紙と集計表を送付する。
- ・ 理事より 12 月 8 日前後に地区会員に配布する。
- ・ 会員から回収後、1 月 19 日（金）までに集計表にまとめて事務局にメールにて送付する。
- ・ 集計用のシート 2 種類を配布する。データを自動集計できるソフトと手入力用の集計用紙、感想などを入力する集計表を配布する。

(5) 各種研究大会参加報告（別紙）

① 関東甲信越静学校保健大会

増田副会長

② 中部ブロック代表者会

増田副会長

- ・ 中部ブロック各県・市養護教諭研究団体代表者が参加
- ・ 平成 31 年度は、静岡県が開催県となる。

○ 静岡大学教育学部 鎌塚優子教授よりアンケート調査の依頼

鎌塚教授

「性同一性障害に関わる児童生徒に係る養護教諭の関わりの調査」

- ・ 平成 27 年 4 月 30 日 文部科学省初等中等教育局児童生徒課長より「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細やかな対応の実施等について」や教職員の対応についての書籍が発行されている。
- ・ 平成 27 年度から高等学校で性同一性障害の深刻な事例があり、静岡大学教育学部に相談と調査依頼が入った。調査は、平成 29 年 7 月の県立学校校長会で了解を得て、高等学校の養護教諭へ依頼し、結果がまとまってきている。
- ・ 調査結果より小中学校の頃から悩んでいた実態が出てきた。そこで小中学校での調査をするということになり、今回依頼をすることになった。
- ・ 調査は任意である。調査内容は人権に関わることもあるため、配布は、12 月中旬頃に各学校に直接配布する予定である。
結果の報告や教育プログラムとして還元していく。

③ 退職養護教諭会のつどい

山崎会長

- ・ 9 月 3 日（日）中島屋焼津グランドホテルにて退職養護教諭会 みどり会が行われた。
- ・ みなさん元気に活動されていた。会報「きんもくせい」を御覧になっていただき「つながり」を持っている。

(6) 会報「きんもくせい」

富田書記

- ・きんもくせい 107 号は理事へメールで送付し、ホームページへもアップする。
- ・きんもくせい 108 号では、「健康診断票の電子化」について掲載する。そのための市町ごとへの調査に御協力いただきたい。10 月末日までにメール又は FAX にて提出する。調査内容をきんもくせいに全て掲載できない場合には、ホームページに掲載する。

(7) 会員名簿について

中澤書記

- ・10 月 1 日現在 会員数は小学校 528 名、中学校 259 名、その他校種 13 名、全会員数 800 名。
- ・複数配置は、4 月当初より 4 校増えた。
- ・平成 30 年度の名簿の作成については、第 3 回代表者会にて提案する。提出方法は、今年度同様メールで行う。

(8) 会計について

辻野会計

- ・会誌「たちばな 60 号」、「実践事例集 15」の代金の納入は、振込取扱書（後日郵送）を使用して 1 月 19 日（金）までに行う。振込確認後、請求書と領収書を理事宛に郵送する。11 月 10 日（金）までに請求書・領収書形式についての報告書を会計に FAX にて送付する。1 月 19 日（金）までに代金納入報告書も会計に FAX にて送付する。
- ・振込口座は会費とは別の口座である。注意してほしい。

(9) 各地区から

高井事務局

地区からの質問・検討希望事項

⑤医療機関における文書料について

- ・今年 8 月に行われた独立行政法人日本スポーツ振興センター 災害給付制度説明会において「医療等の状況」を医療機関などに説明するに当たり、医師、歯科医師、薬剤師、柔道整復師、鍼灸師の皆様は特別な御配慮により御協力をいただいている。文書料を無料にいただいているのは、御厚意である。法律等で無料と定められているものではなく、県、学校保健会、医師会で強制しているものではない。

山崎会長より

独立行政法人日本スポーツ振興センター運営会議が 2 年に一度行われていて、10 月に参加した。「医療等の状況」についてお願いされたことは、これまでの歴史の中で日本医師会では、子どもたちのために給付請求に関わる文書料は、御厚意でやっぴいこうという話になっている。

⑥近隣校サポート事業（正式：近隣校の行事等をサポートするための養護教諭兼務）について

- ・本年度は、この事業は行われていない。（県教育委員会より）

県教育委員会教育主幹松本先生より回答

県の事業として養護教諭が複数配置されている学校をモデル校として設定し、学校行事などで養護教諭が不在の学校に複数配置校から 1 人が出向き、養護教諭不在時のサポートをするという

事業であった。県には年間計画を立てて報告をしてもらっていた。

この事業は、昨年度に終了して県としては行っていない。中には市町で同じような事業としてやっているところがあるかもしれない。

<各地区の様子一回答できるもののみのまとめ>

①発育曲線の活用について

- ・スズキ教育ソフト「えがお」を使用し活用している。
- ・地区内の市町で活用ソフトがバラバラである。データ入力に労力がかかっている。
- ・医師会と相談して、健康診断マニュアル（P25 参照）の2，4，5，7，9の5項目の該当児童生徒に通知を配布した。中学校では3分の1が該当となった。医師会と相談をし、来年度からは中学生では上記の2の該当者には配付しないこととした。
- ・学校医により判断がまちまちである。
- ・医師会や学校医と共に研修を行った。

②体重測定の風袋 小学生-0.2 kg、中学生-0.5 kgで対応しているが他地区ではどうか。

- ・小学生-0.2 kg、中学生-0.5 kgで対応しているのは2地区
- ・測定時の服装を合わせる。
- ・わからない 多数

③健康診断票の電子化の様子

<手書き>

8地区+1地区の一部。健康診断票（歯）のみ手書き：1市町

<電子化>

- ・健康診断票（一般）のみ電子化。健康診断票（歯）は数年かけて移行予定。
- ・独自ソフトからえがおへ
ソフトの切り替え時に全員分印刷をした。校医印は省略、小→中への引き継ぎは、市内はデータ、市外は印刷。
- ・H25年度より電子化。
- ・H28年度より電子化。校医印はなし。転出入は市内のみデータ送付。デメリットとしては様式など簡単に変更できない。予算の確保。
- ・H29年度より電子化
校医印省略。中→高への引き継ぎ、転出時：印刷。小→中への引き継ぎ：データ
今後、校務ソフトが導入されると切り替わる可能性あり。

<導入検討中>

4地区

④児童生徒の健康診断について（年度途中で転入・編入の児童・生徒があった場合

- ・転入時に結核検診を受ける 10地区
- ・転入6/30までならば検討委員会へ。6/30以降の転入ならば次年度へ。

- ・問診調査は年度内に行い、精密検査は次年度へ。

その他の健康診断

- ・学校のできる検診のみ実施 6地区
- ・学校医で受けられるものは出向いて受ける。
- ・予算が必要な検診（例 心電図や貧血検査など）は、次年度実施する。